

# 実りの秋に 期待膨らむ 米検査始まる

9月8日（金）、JAでは、片貝低温倉庫と上ノ山低温倉庫、城内低温倉庫で、平成29年産米の初検査を行いました。

農産物検査員は、集荷した米袋から穀刺しを使って玄米を取り出し、検査用の皿に載せて、米全体の形質や整粒歩合、被害粒の割合などを確認。1等米の規格基準を満たした米袋に「1等」を示す等級印を押しつけていきました。

## 粒の形、色は良好

初検査は、生産者20人が持ち込んだ、うるち玄米「コシヒカリ」27俵（1俵60キ）と「こしいぶき」623・5俵をはじめ、醸造用玄米「五百万石」1174・5俵、もち玄米「こがねもち」42俵を検査し、全体の1等米比率は95・9%となりました。初検査を終えた田村重行指導検査員は「日照不足による登熟不足が懸念されていたが、粒の形や色は良い」と講評しました。

検査は、管内4カ所で実施。JA全体では、約12万2000俵の検査を見込んでいます。

9月25日現在の1等米比率は91・1%で、検査結果は次の通りです。

集荷予定数量に対する集荷率は35・4%で、4万3184俵に対し、1等米は3万9350俵、2等米は3727・5俵、3等米は96・5俵、規格外は10俵という結果です。

# おいしい米 全国へ

## 【魚沼米懇談会】

9月5日（火）、魚沼地区6JAで構成する魚沼米対策協議会は「魚沼米懇談会」をJA魚沼みなみ営農センターで開きました。全国の米卸とJA全農にいが

た、魚沼地区のJA役員ら71人が参加。取引先関係者に産地の取り組みを説明し、魚沼産「コシヒカリ」を安心して消費者に届けられるよう情報交換を行いました。

懇談会では、全農にいがたの担当者が高品質米の安定生産、JAグループへの出荷結集、販売力強化の取

り組みを説明。事務局は29年産米の重点取り組み事項や生育概況を説明し、各JAは状況報告を行いました。

参加者は「品質の向上と価格の維持、安定した供給ができるよう、生産・販売体制の構築をお願いしたい」などの意見を述べました。JAは「生産者が再生産可能な価格で販売してもらえよう、より一層の協力をお願いしたい」と要望しました。

懇談会前には、魚沼市内の圃場（ほじょう）などを視察し、生育状況を確認しました。

## 浅田真央さん CM起用

### 【新潟米懇談会】

9月11日（月）、JA全農にいがたは「新潟米懇談会」を開き、平成29年産米の販売戦略を示しました。プロモーション活動には、元フィギュアスケート

選手の浅田真央さんを起用し、積極的に展開していきます。全国的な知名度を活かして「新潟コシヒカリ」のブランド強化につなげる考えです。会場となった新潟市のホテルには、全国の

米卸と県、JAグループの代表者ら80人が集まりました。

浅田さんが登場するテレビコマーシャルは9月26日から1カ月ほど、県内や首都圏、中京圏、関西圏で放映しています。また、インターネットを活用した動画も公開しています。

懇談会では、29年産の相対取引基準価格や30年以降の生産・販売の基本戦略を発表し、米卸との意見交換を行いました。参加者は「浅田さんを起用したプロ



▲販売強化に意欲を示す全農にいがたの今井会長

モーションに意気込みを感じた」「集荷をもっと頑張っ  
てほしい」「米の需要拡大に  
向け、新潟県が全国のリー  
ダーシップを取るべき」な  
どの意見を述べました。  
全農にいがたの今井長司  
会長は「浅田さんは時の人。  
ファンも若者から高齢者ま  
で幅広い。幅広い世代に新  
潟米を食べてもらえるよう  
にしていきたい」と説明。  
販売促進のために想定でき  
ることは全部やると意欲を  
示しました。



▲圃場で生育状況を確認する参加者